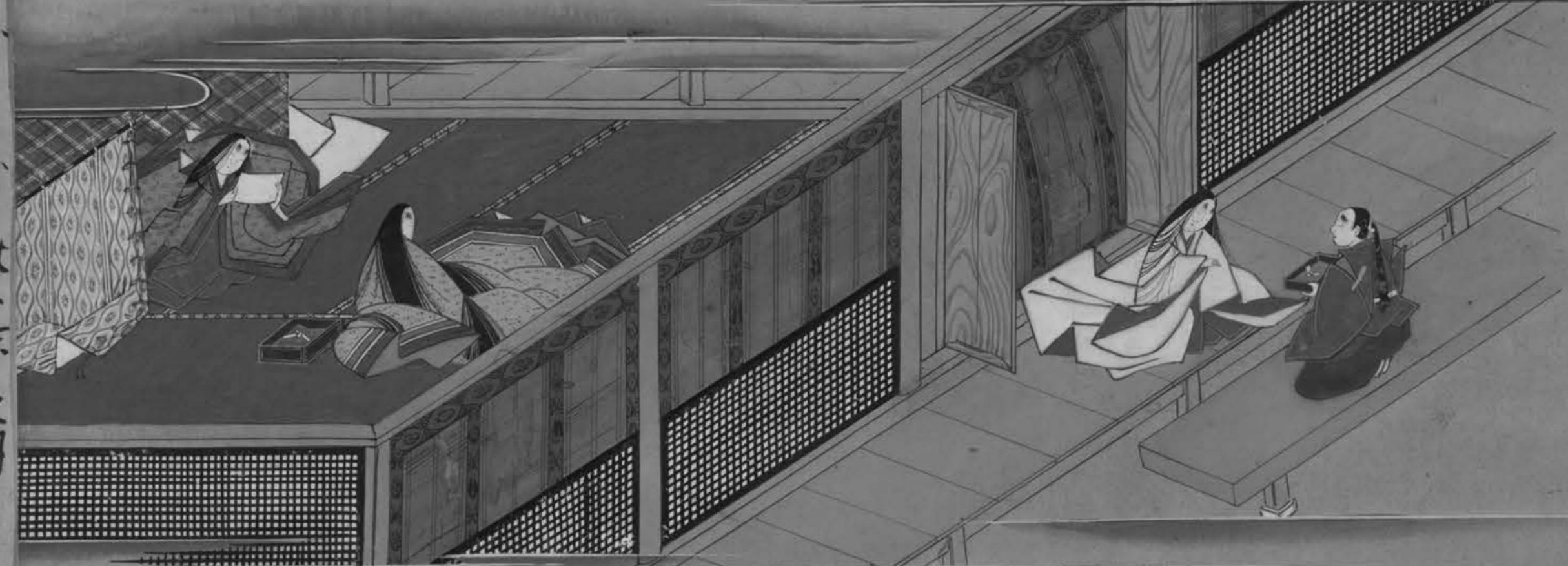




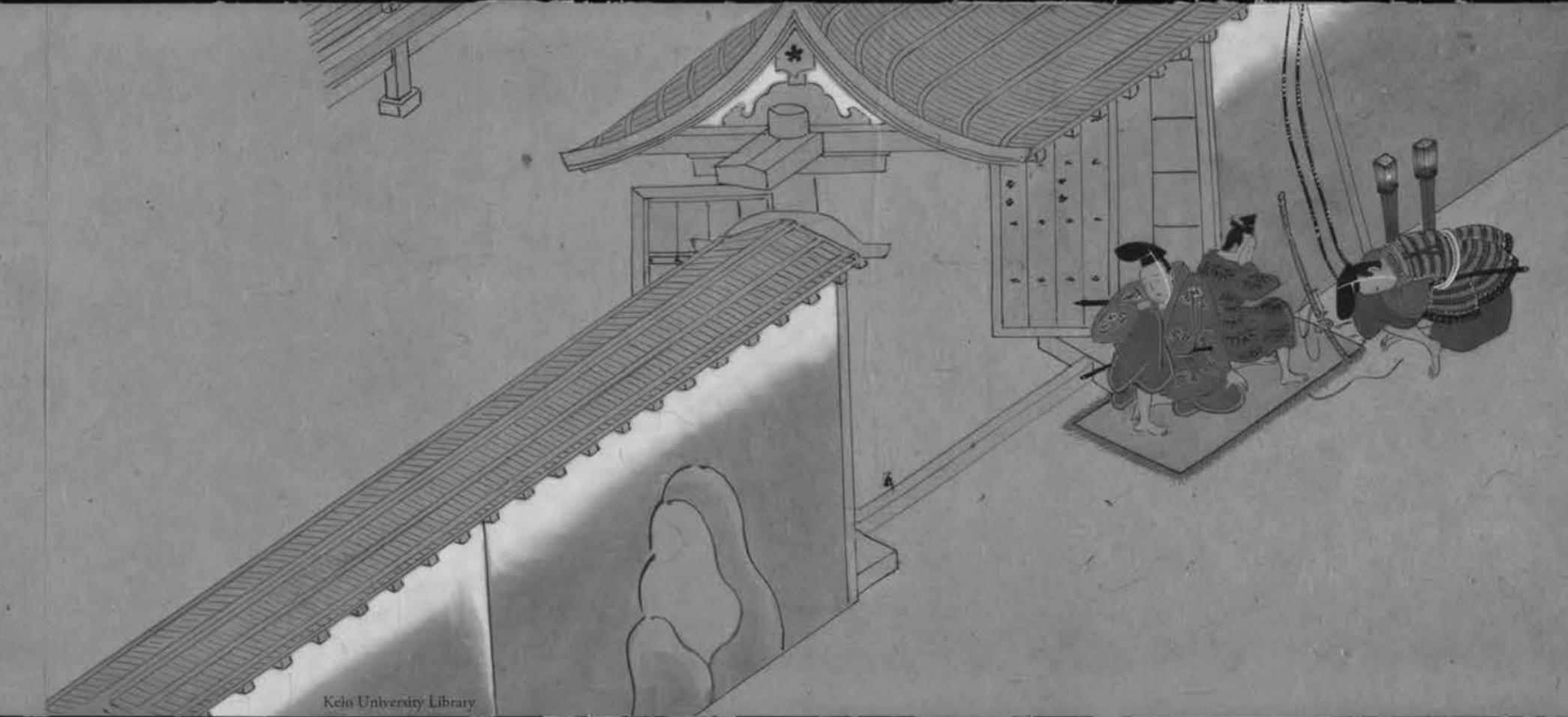
黒川はとくとく富一翁は
ひまわしかね、神さつとも
二條のきみをもとづくとも
はうとうらうどそと人ゆく
はてゆるゆくゆくゆく
うちありふきけんへりを



月を重ねてわらはは
えだうに黒はもじとく
スの月はし月はしかへた
さみにせとひく、いそたらく
人あくさんきとこを小ちに
をもわくと化うとてわくと
わくと月の月のくくぬ
てあせとてことすとすと
月やひるまやしれまくま
ヨウカリのひととせかふく
ととくとくわくほのくとくく
不とくつりやまと



じつ不りもすらん
のをいあめん
この物をほくとひそむ
そしておもむく人ふる
わざとまじめに
けどもうらへきてつむ
そろはれども
人とまくはるはる
いあとおらへてうら
人ふるがしづのせ



せくそりとす行は、とひう
やか全人あらば、うきと
おのもうすす、いとすれど
とあきこゑあつまうまき
さうとそらあまもとゆる

あめとく

じつ不よとよとく女ねえう
まくらすとくは金くよ
もしもれとからしてゆを
まくらむくたまくらゆと
たゞいぬ川とゆく、美入氣え
まくらへよをきらす病と
なむりいそとくしわと、うこ
むくらゆとくおほく和しぬ
室小けきはね、あだ不とふ
難て休さへど、みくらむり西
紫いきゆりけき、あくわね
くみおおとよおじゆく、ゆき
あ、おとこゆくやふくもとおじ
てアくじくもとくもく、お
まうじくもくじくもく、お
うわくや、もくくじくもく、お
うりあくや、じくじくと休みる
えとおとおき、おとおき、
おもゆくと見えきとねてア
女寝けり、うわもくとくとく
くまもとをえく

今玉、うわとくとくとく
病とあくとてまくまくやと
こきを二か八きのひと
こゑおおうにもくはま
もつむ金うわくぬゆくわ
ゆくとくとくとくとくとく
うをねまくとくとくとくと
みく、おじくいてあくすうと
くとくとくとくとくとくと
ううとくとくとくとくとく



じ
た
と
わ
ま
京
に
か
く
う
つ
か
く
く
い
き
あ
れ
る
は
と
く
わ
く
い
く
み
は
成
む
と
す
な
ま
い
や
を
ほ
く
う
と
く
い
く
く
り
ま
を
さ
み
や
ま
く
も
人
は
ま
が
や
く
し
ま
だ
ら
ん



じいおとこりてすりあやと
みうらきしわいとあくさ
ゆえくすこどもがもじとて
こゑせんれんじとゆくわ
くわせきすりとねのとく
わこぬかするすまつり
ぬじとくす
とくわうりくけせまく
まく、たへたへたへ
たへたへたへたへ



じくにこころをかのま
かとそうすきや木雲をも
京かわへつて志を
もしむち圓もとをもとと
少すらととを友とも
人もしもあらかずすが
すらうらしむかへひくす
波よきすらこうふるを
至りうらみの二浦不く
れぞとていもとくも
とあざく川つくとてすきと
を代金つとせむりくわく
をじやりとくはしますその
川のほしりゑ木のすきぢ
かく、終、年く、むすりとく、
いかがつむ、伊やおぢゆく
さむらをせきてあわれ人
乃こもとさつことくふく
をもあめうすむくとくの
が衣きうれゆほくほく
もくさむひとそ里ふ
くもとすくはとくとく
心うけ

ゆえくよとがまくす
よちねういのひよくす
よくしとれからむと
くれうひをあははくと
くもとのうれうくと
くわくめ絶くとくとく

と行者あもうちあはれを
へつて、いぬまにせいかとんき
もるゝ人ありすれど、そとてあ
の／＼あがとくとくとてあ
まきくはれ

すうめうづひきれうつにゆ
差小もくわくねうらあ
ゆゑあふとえとえこ月八つ
いきり／＼ちくとくほうじぬ
きくわ

ぬあくねひかくめゆうとも、
けぬゆくみちくもくに
そのふとくうそとくは
い東へ山とくとくもくらか
称わすとくはとくとくら
ちもくう／＼やう／＼とく
あり計画な残少ぢくとじ
くはくいとあとつかさう
をれ川わああとれすす
たうと、ぬれ川乃是とくふ
じきゆくおとしやまとはが
きくわがとこをももきく
計画、那ともとくへぬす
よ／＼もくもやお／＼の
往日、意をきねとくの里
角もくらととくれみる
人のともとくとくとく
だむ／＼すれくわくわく
さむから／＼そとくきく
もくとくわくとわくまく
くわくきくとくわくまく
わくもくとくわくまく



京小は見てゐたとはかる
人見つねと見てそりう
もとあきよなに於みじやこ
もと、松と赤、赤
名川、ちくわさくじが、ま
わゆふへあらわが、やこ
せよそり計ともかこそりて
かくのすまう



そつとおどじうの國もて
ぬれりわたりキテましきてその
をいわゆる女とよみんをひら
參ふと人りわしてじとび
計るとも承んて全人合
あ務はめとままでじから原
をと人ゆくとじから原
をりすかさてうじわてうれ
人アシホモじすうれじ
計るとしうがうじほ
ウシホリスルノ聖乃聖丈
すまむ
尼子の片りとひゆ
志のふくれとくせり
じこ称せ
我にじうことく形みうけ
のじゆるとうわ形へ
さうじゆと志くふくめし
を伏つはりと至まらけ
じくとあつま、せ先
き取ることももこも
みらじいもを二段を
りまえ、とやの義と
きく月乃先くうなま
じくれにうりまくもとろ
じと失とわくみをまく
せりけくふくめくもと
そりけくふくめくもと
ひふくめくもとまくふ
小をりくらまく今をね
わくまくはまくしむと女
もく
じくせりくわくたるまく
まくまくはくもくもく
をくすけもときて女と
あくまくくふくめ



そしむねふとまゐる
かへもうさきにせよはな
のうにゆくほどのじよせ
あくわきとおてはなは
をとせうちよ計行は
京しむ女

しきりにほんとせよのじよ
こゑもほんとあむのうに
やわらとんあじしまへに
うだす

とくとくひじゆうみ
くわぢわんとわくと
じいれくわんとくと
けきくわんとくと
くわ京の人にたは
わよしわよしわよし
くわじとわよしてわ

ちくに三ふくにこや
をくへりやくとけり
うへをもひり計ぬけ
くうとくわたとむまし
くわゆきりたわくみて
けとて女

かむじくとくとくと
かのねのねとくとくと
かのうとくとくとくと
かのうとくとくとくと
かのうとくとくとくと

じくとひのふとふてうこよひ
人乃めふとえあつみわゆうさ
やうてけへまくわくと見る
まむ

ふりふれじくがまくわくわ
人乃ふとめくらむくと見く
さうとめくらでくこむへ
ちうきくうえもとくみとく
とくはせじ、
じくとひのふとふてうこよひ
すらこむんくはくわ



後漢書卷之三十一

さくにまはめすぢとあらう
さくもひうとうじたく





じうをぬるわ娘女竹庵
にいはまうをうむちうそ
人うけはまがんせと
まくひつめとだりす
おとこまえよやね
氣あふ小引がくとくわ
かくしとくとくにうとくへ
かくしとくとくにうとくへ
それ年にううへくちうそ
ぢうる人うれとく足ゆ

じつおとこえはぐくすう女久
せうしよと計る人とくもとく
ちゆくともなく、往小あり
むかへて、宿をとく女久くふる
くゆくあく、おとこそわがわ
と思ふと女
わうむれいじふくみく
さとふれいじゆくとのく
くよせらすまはくにや
わうてのくせりとくとく
くるおれひくゆくわくとく
とくめうすまく入るわが今
うじふけん

あくわくとくとくとくとく
かくわくわくわくわくわく

じつおとこえはぐくすう女久
くよくとくとくとくとくとく
くよくとくとくとくとくとく
てくよくとくとくとくとくとく
わうとくとくとくとくとくとく

金

ま事にあつておきそつらひ
京りきはあてうじとてきわ

計れ

いじりまうほのまへん
あう里小はるかすくわ



黄木とせいかえ田もとて
やひからまうとひうす
わうじゆうなむよはは
あくよひをひうと黒毛
ひといふじと黒くらふと
えじとくわにあつめに
ひづひのゆく作らせじ

それ何でござ候んやうか
やうやくおこなつて、少しおじけ
をうそおきとおどすとまうじゆと
えぬよしもおほえねと何う
して、あは、しやくすなが
事、つむにとと絶ゆじと
み作へど見えん? み見まきと
いつことらうとおほえりあ
るよつて、わざ

おもぬひよせうあり年月
あくみちやそりやそり
やいえてすわき

人情、才覚をもつて、
おもろがみの仕事をしてい
この女と久くありふれ
ともくわたりすし仕ひとこ

とて手を取れども、
人へも勝てぬ處、
かくして、

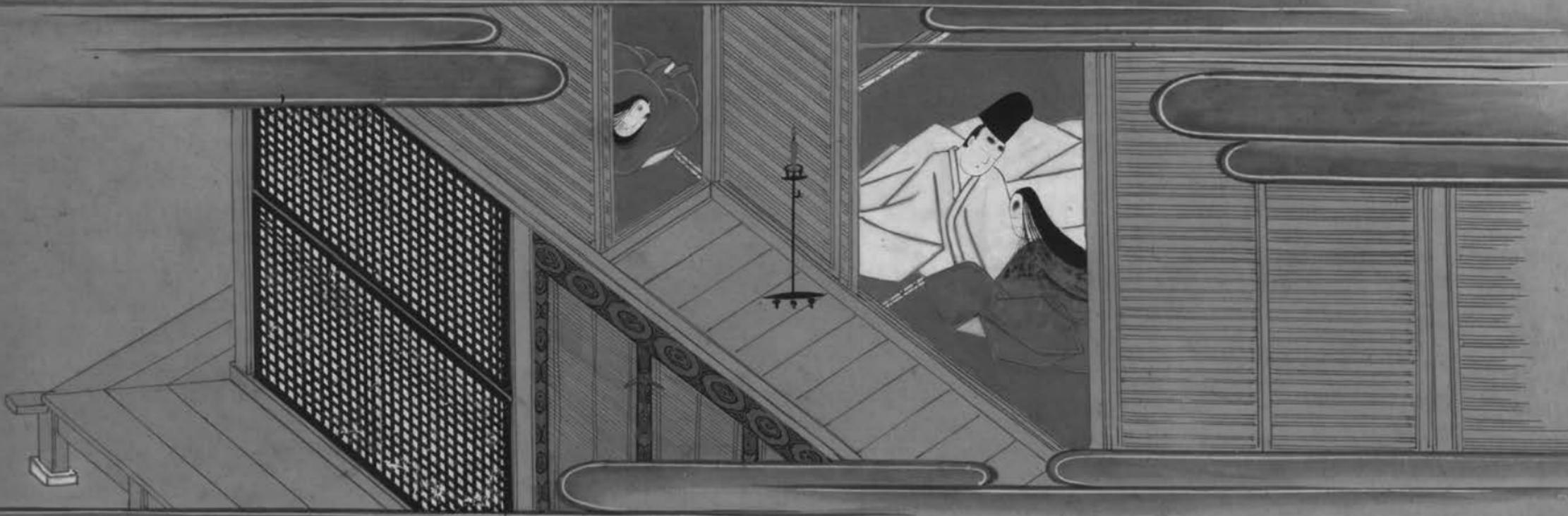
にまじめりとまどひしる
よくわすれがす小、毛のこ
うすれに

わざくらすにゆきかず
よし

おまかせしとおのれをいはく
おまかせすとおもひより小手續
じゆもあてそえりけふ中
ねやつと仕あらじ女志もや

主に於て人をもよおしやむ
うつすまつたがれとあくま
うめりはとくわくもとくいりて男
あも見て、かじりとくもほん

林のうち一木と
ことのらきやうじ
くらまわてうん
じける



じしわみうきく、えしけんへま子
と井のわくふかへてあそひむ
だれよがくをほれ、おとこ
おどじくもくちげとと男、
こう女とすゑめと見ゆ女ハこの
れとこととおもえつ、をやれわ、
もくともきつてしま、しまけろとて
うこうううおとれももうと
うきたむ

はせつわけじやまくわげ
とくよまくとも、いも見さつま
やねく
くへてうらうみしかくをぬ
あねくとくあまくづくへま
がといもくよはるみで、うく
あひよきりく

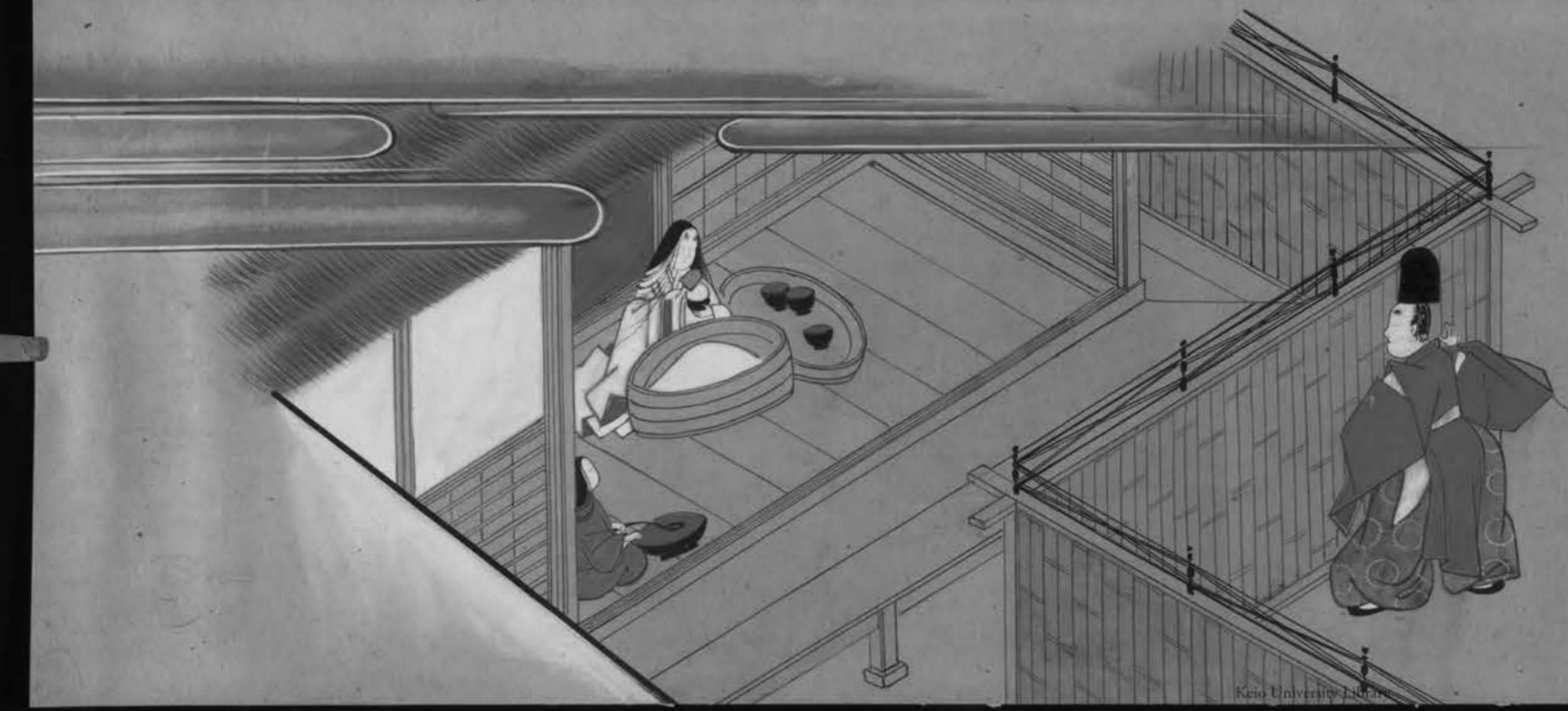


さてやうにあらうと小女なる
をぬりぬくちうとうすしも
のいぬもさくもわじや
とてあうちもくふをやも
くちもがまくぬどこめいて
き小室りさうおれどくもと
ゑせ行くよしはすまふ
をくゆくくにりすれま
ふとえおわるひだやれと
おもひまくもくぞんそろ
ふく行かゆうちへゆく
かくまほのゆくうけき
しゆうじゆく
向けてまきはすくすく
よおわきみりゆく
をしゆくとまくまくま
をかねせよもくくうじ
けとたり小汁



ゆきく、れそやまとさ
て、人情はそ先すうち
に、小をもはうりすくす
もうちけゆきつづけ、
ひよくまことうつことのよ
とりあてと、とくとく、
あい、とくとくおなじうけき
え、れ女やまと、そと、
をりく

たるる、とらし、ま
すれ、とくとく、
じ、とくとく、からく
事やう、こい、じと、うよ
河に、ひの、かくとくとく
わ行す

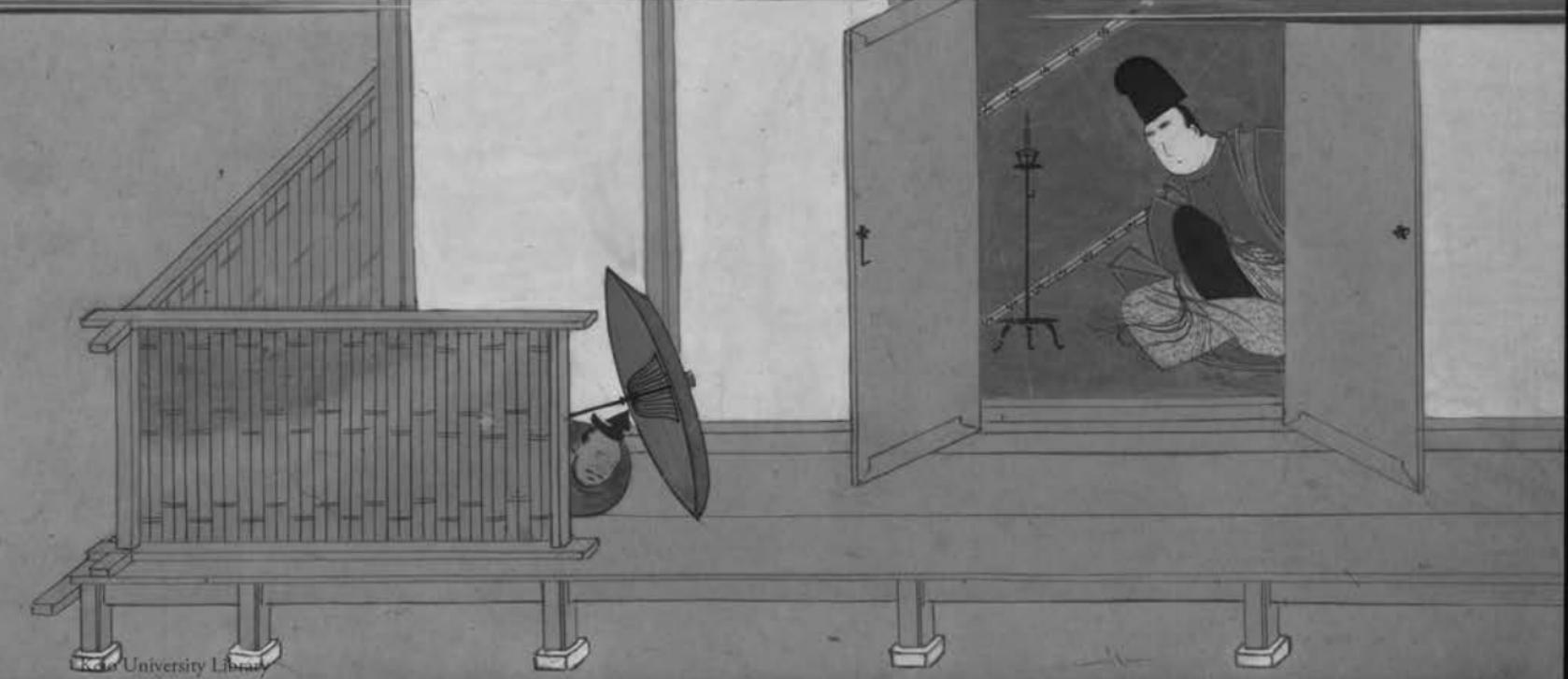
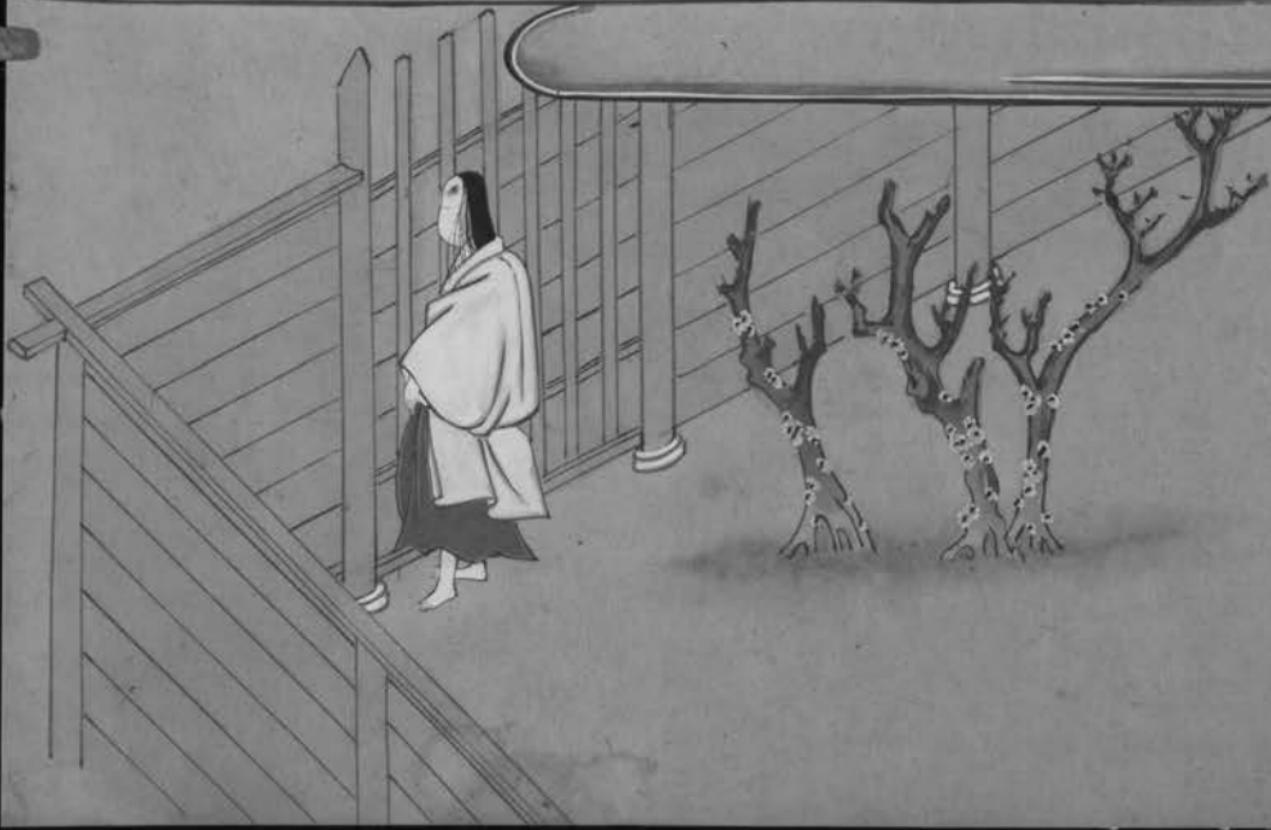


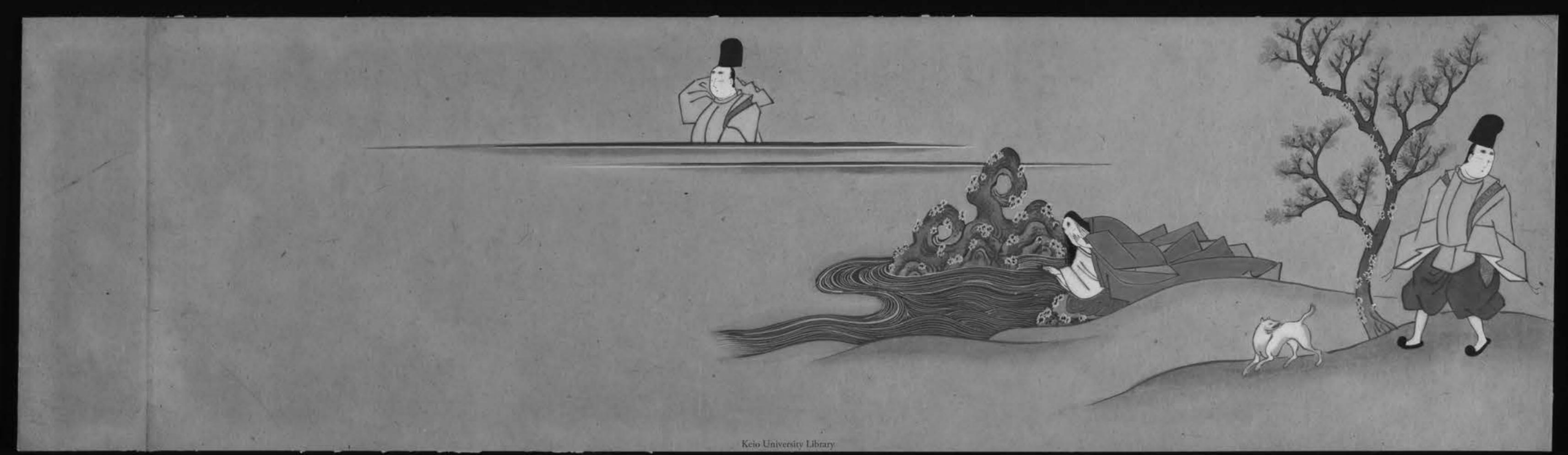
身のまわりを悉くとぞ
身にもすれど不^ト一すま
うち小計

じつはとこもかよふ
すらぢきこまけぐくふく
この行けりゆきつけ
たが三と船こらすれは
らむえりあがくはくわく
こ病うじする人すらし
あそじどらまくらすれ
二ノ木にきくもすがこの
行あめへとぬ、未すまと
すてすとたしのみあ
とす計

わだけ年みとと約して
そやしナ小をくすれ
じいをくらすきと

あつらにまきつさゆ、年とく
わせすことくはくとくせよ
せりくらしとすくはくと
わくら、元あらじとくわ
あくはく小くまくわと
とくもくとくくにくらじ
女くらがくくあくとくもく
とくせけくそくはくとくつ
くわくこくわくゆくくわく
ちくとくきくはくゆく
もしもくれくわくくとくわく
わくあくいとくせくとくわく
くわくとくくとくくとく





じつとまゝりもすすめあひ
いとと併くさりあれ女が
けどりなりすが、もとを

いもやきゑん

林乃枝しきりすらば神うと
のちてわね承そひらはれける

仕事二つ、お母やく

足あらだと、力と、こころねや
う徒ふてひづれあゆみ、お

モレ、おとこ又除そくぢをも
けぬ女を是、ほぢらすゆ

やう、え、よ、あん人へなすゆ
おじたと袖とみとせきくわ

と説く承意もくほりに

じ、おとこ女乃ももすうと
衣、おとこ女乃ももすうと

けまは女乃もあゆと、病小
ねきす夜うらむりて身ひが

うすうと計ぬと、うと
よくらぬよへを人もあ

と、とくはあはるく、じとく
やくじを、けにうあすが、とこ

ももきて

今、もくじや、せじ、ハ、
おおあらそく、おおあらそく



じく侍らこのなりすま女
ひでいよおきはぬえうくて
おとこ
みそくわくまくしうみを
あそびうせしとしわを
じくまえの女清志はまく
花かぎすがわつも絆ま
うちけがく
をうねりきはつまく
まくらゆくふくよめくも
じくねくそじくまく
おとこ
わ事、玉のどう不も行ふ
てきんづなくゆる



むくえの内くじらうて花
のつり松も人とまわるが
小をみるわくふかおもひすん
うや草原までせきそと

とよむこ

つもるがくとけへとくわま
とのうへとむとわくよさる
せいぬとゆくしめもきる
さうものじまくせり年

あわりる

ゆくかのとくのとくのとくの
じうとくのとくのとくのとくの
三、かうけとくをとくとも
くわくわくとく

じうねこはの圓じくを
こちやくがくもあれきこれも
いまとくえはうくとくとくとく
いきなきくわく

わくらむくらぶくわくわく
きくんとだいもます

じうねこはの圓じくを
みこはくくくくくくく
わくらむくらぶくわくわく
じうねこはの圓じくを

くわく

くわくくわくくわくくわく
くわくくわくくわくくわく
くわくくわくくわくくわく

くわく

玉のとくにじりとじくと
すえてゆくもあじとゆく
じくとアキラケユタリと
とよむとよむ

おぞみねをもるを玉つて
えしと人すりやもれよ
じくれといゆのうきりけ
かうわらすとうほめこ
まやものひあき

ゆきうてをとくとくいわ
せすけまわねよあと

わいそととくとくとくとく
じくきわらつねりけき
とくとくわらくまくまく
えあよしゆやを計る

あふをもむくもむく中の

人を

うのをうながすとおもひておひで

さゆうとのおもひをうながす

わ先へいはいあらうれう

あくらうだらうううううう

じつとおおおおおおおおおお

おおおおおおおおおおおお



Zeljko University Libz

じうにこころのまこと
ゆとあひてすまほと少く
もくらきをありとしくき
まれねばりしゆくまう
そつともとめられまうと
さうなれどえ行まけり
ゆうすすむとゆづら
ゆれりあゆえはそそ
むし
きてうゆかまくが
るあいしたとせんと
とのまくうとじよくうと
きくわくえととみ
せうゆくとせのくせを
いはくとくとくとく
くわくすとまれのま
れとえすと人きはあ
まくとくとくとく

はよりておまかせしゆゑども、
なべうとくをほんのうめで
おばらのとてのたまけあく
いわゆるとうじゆるまく
とき、このうしわげ、やまと
ね

おおむかへてひきれめし
くとし室にとす、
じくわくゆくへしまれも
うしけどしてともあうとま
人やわくをうながす、家くにし
こうまけせくさんうそくう
まじとあむれふとこくも
るものうみゆはまえ
めぐりあきらめくわくま
よくとくをうきわくきる
あくとあはれにたゞて御言
様をうなづくとくとくとく
あらもあ
じておもてすとんじとあ
あつてつまつて、のとこ
もの、いじとおとこりうじてん
こくくやうすしとのやみ
うくふくさくわがまく
たもし、わいじとおとこ
けあくたくはまうけきて
はとおきておけきとおけきと
つとくとおとこをアタリとて、
かじよもとおとこひりまく
かくとくとおとこへま風よき
すめほくそうごもわれ
ころたとことあせく
やくからせうまと、いわへと
林ゆくとおとこはあこせ
まくとくとおとこひりまく
されこくわくとく

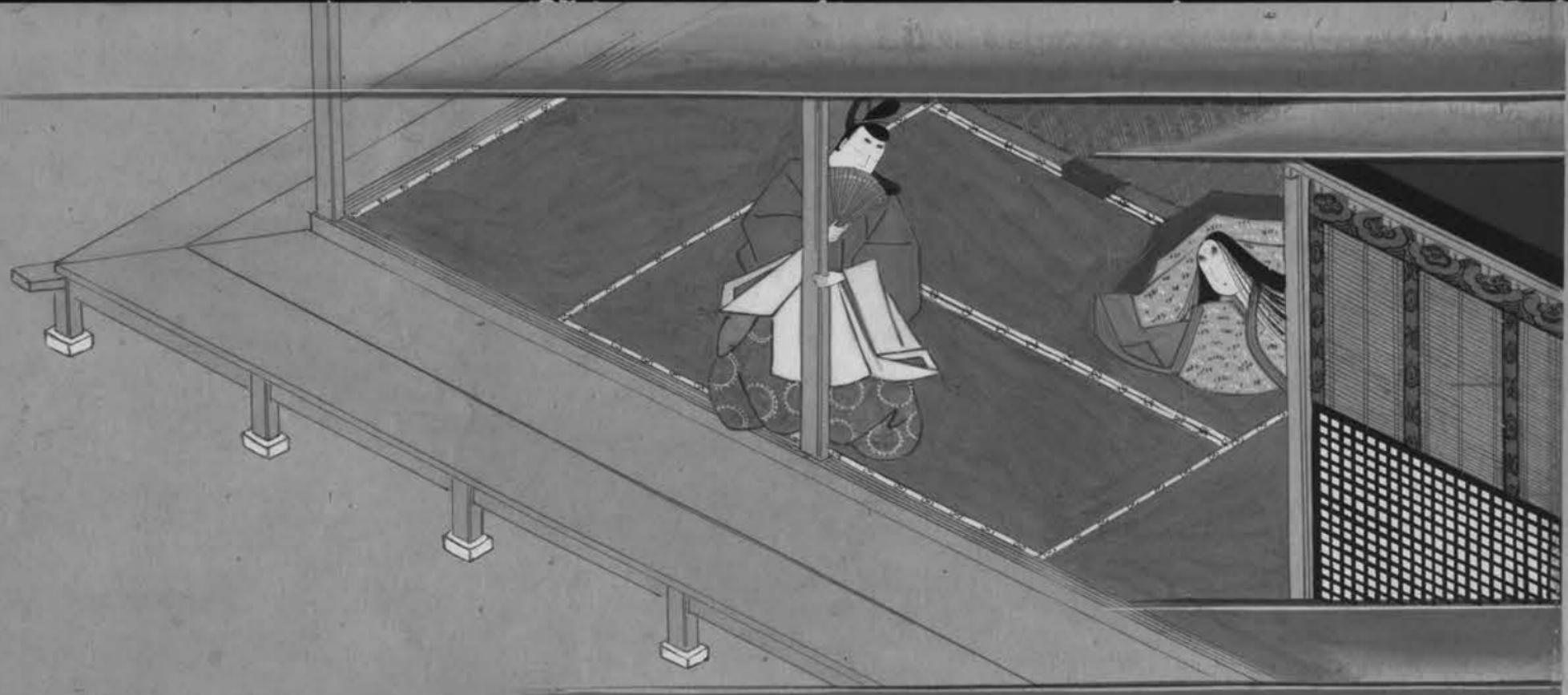


じうおもてうはくま友を
うちかこくうひわいもくらみ
ともあくとせきすとくの
それせむとくあらしめすり
月の匂くを、夜の月より
わくまを、やしそと月
りの匂ふ計ふうつむけ
ぬいよしとほくわくもとて
えしゆをゆるをゆる人の匂
先とくとすまへまの
小さううきやうすすねは
みくらふ

あらとおじうに
うけよせはまくわくら
じくわくじくにそせ
おもひすとくわくわくもとて
うやうわくうううては
花の匂うらつくる
うけよせはまくわくら
おもへとぞ、たのむらむ
やくわく

おねこちうにうて詠くても
つヰみよせ、ありとくまと
じくわくうれじまは
えしゅでじくわくとくわく
こくわくとく
くわくうくわくものとくまと
こくとくわくうくわく
じくわくうくわくうくわく
うとくわく
うけよせはまくわくら
人々じくわくうくわく思
やきをうくわく
あまくわくうくわくのとく
うけよせはまくわく

うけよせはまくわく
うけよせはまくわく



じいにまきりまくわうひ
人とすみす
もれとつことがさむ
おもすかんをむしゆのへ
せぬりけとく
明鏡、きえのうりともあらぬ
そよごはくはくわうひ

吹風よおとめぐらむかしも
われの身のまことにあらゆる

入水也

いわばいすくらもくわが
わらふか人と思ひきは

又おもへ

せくあこすくはよひとちむれと
つきまたぬにとほきをひ
あくをとみゆきをめんむと
せらふのをあつたとすらす
をうく



じつにまごとあでこくも
うけぬ

春の日は林をさかづく
花の下に坐すと風の音



しのむるはまくら人づく
うめの下に坐すと風の音
わからぬあそ風の音

ちとあへとうしをりける
じくよくわひもて女ノ
わひゆゆゆくをとどくよ
むかをこすれす

いそひゆれくらじふきよ

じつむはまうりすよ
いきやまけふ

行やなまうとみよけふ
わまくわめめとすく
じくよくさひもくわせ
むくまくすくとくとく

むくまくすくとくとく
あたしらしあまり
そくねくまくめのまく和
そくねくまくめのまく和

もくねくまくめのまく和
もくねくまくめのまく和

じくよくさひもくわせ
じくよくさひもくわせ

まくまくすくとくとく
まくまくすくとくとく

うそそめあら

シテアリヤウタ、カモニシテ

さへうきはく

卷之三

おもむろにうなづきを

志は乞ひ、未だ小行園

のちの老僧人（うきとうじん）
わくとまでなり。」

卷之三

卷之三

卷之三

じつは人々の心のうそ

せの言ふとせむし

行水錄

じつはうそだ

とよきのゆゑに

うかく人へいじめとされて

卷之三

卷之三

不思議な事に、

しのうのうわく

卷之三

うてまことにあくをかた
まやあにじあはとせ
せきすりにまわる

やまと

いづくわいばうひくわ
ふすまこもうにひがみ
せりと併こつとせり
せくえでわくとくく
くまとくをとくいは
うかとくをとくものも、れ
といぬ

ふきえむあとのふつ
と月をきとぬらうう
せ、ゆきわくとくとくは
まくすてかけよくう、
わじとくとくお

じくをうねはあれ女、そ
うねをうけあしらうに
わも見て、ねだまへとひ
べしめうそをうにぬこ
とくわゆめうそをう
ゑこたなとあがくうくを
あくねうそをうじとみん
ともじゆうくとあがくう
うねうそをうじとあ
もくとんとくとくう
うおうおうおうおう
うてこゑをスヤねうあせて
いわせすのうきあわうえ
いわせすのう、きうえ
うち小てじうほくをうりう
ううくをじうほくをうりう
もわせりうきてねうぢう
みてのうおう、えううけ
せうとうう家うめうくうま
みうくとくうのうみだく
ううとくうううううう

も、ともかくさうとぞ思ひ
まちあせむに、わが身は
やうみのじく見てゆゑど、
女をまくねと
ミシテ衣ふをもや
さしよみあそびの心
せきすみすみと不とあ
ど、おももちやそのれを
あひよへ不、ほき、
わらぬなほおとひふね
とは、わしすみものとこれ人
多、おとねともわしもくねと
まらせんてめうしもく



じう。おとこ女みたふあくの
こととせうもすとそつうち
すじあやくさむちか
吹きよつがとまほ玉とし
じゆもとわづはまものと
れ

ちもわ風、もともとすき
ぬゆまは、もまとじへま
じくおけにけくはふ
娘女、ゆうきくわうりあま
おうみやもしとあもとゆめ
う計画いとこだりすれ敵と
苗ねだにゆくことまく利
きくとみの女おひきらきうら
をくせくおうきくわうけと
あわねじゆうきくわうけと
受けとく女とくとくそり力も
ほりもうじくわせぞくりん
思ふふのゆるすとけく
あくくくはとくとくあく
やうてこうくたきゆくはれ
あくくふく人をあくと
あくくわゆまきはこう女
おもひきをあくとおもて
いきまくまばくまく人き
あくくもくはとくとてこの
もつまく見がうとてとく
あやうなけとてのり
ねくわわくつてとく
うかえいとくめたりねを
すきくはぬくはぬくわへし
とこうたとくくせじよ
かくうくわくわへせうと
朴よもよまくわくわへ
のうがひくつをとくく
やうくじくまくわくわへ
せくふくまくすくわへ
かきくまくわくわへ

あざこひくらうみせんそ

水をうあくもがよけれ

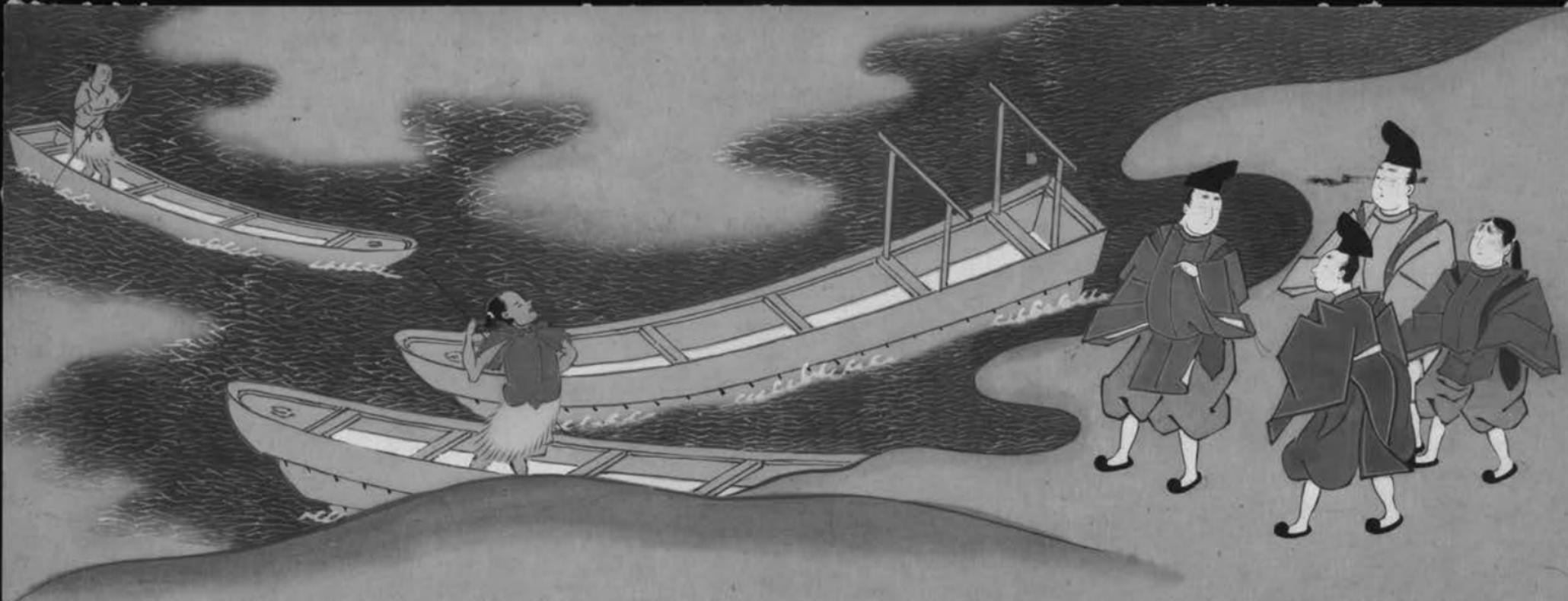


せひもみをしらすすめの
るともやうへんじゆく
あくはとあがめをかねむけ
ちゆうじゆまをあいしゆふと
ぬうこみてやそまくをき
て女をゆうかさすりあら
わくもはよゆうてとくせば
いとき様くとてをもさきける
あはうみせんじきうきつ
あくこわにといがくは、も
くまけきこの女といこの
みやもこめ女とはまそきと
く離すこえくとておれ
くまみうとぞすく
わはふもとしれんじ
ふとうなりをとほりて
わくことまは、のとこ、も
くふしもれ、とまき、ゆ
とのもとゆゆゆく、お
はくしもれ、とまき、ゆ
はくしもれ、とまき、ゆ
むすめ、おもて、くに
おもて、おもて、おもて、
おきせわらひくまくとお
らておじわまけふ
けもじゆじゆけ
わがりじゆゑとおゆて
わくもとくわくわくもとく
りとおゆくわくわくもとく
わくもとくわくわくもとく
えくはくわくわくもとく
わくもとくわくわくもとく
えくはくわくわくもとく

じつねくのくわいと
わきみゆううとくをとく
とも木をゆかすはづく
ひまやうなまこととくと



とあはれにとて
おもはとけくやうゆで
ひとへのよしとくらむる
こねとあしとくらむる人
くわうま



物語りをしたがひとておれ
そぞく人多くわざこむうる
もとでまくわづこ二種のやまとて
ゆりのゆきとへつまとう
うゆきをゆきとゆくわ小
ゆき不すみかねと二伊ニ
うれしとてゆきとたれと
ゆりはとゆきとゆけと
ゆき人とゆきあゆきとゆ
ゆきとゆきとゆきとゆき
ゆきとゆきとゆきとゆき

春やうゆはりもじむれど
暮、まじ、ほくさうそ、
とこへとよきよきてよき
ひくみがくしまよきよき
まうつじよくよきよき
やくやくよきよきよき
わせすりよきよきよき
せきくにじよくよきよき
めく、とくをあくよきよ
きよくよのよきよき
えせつけいりくは
ひあくよきよきよき
さすのよくよきよき
あひととよきよきよき
おひくよきよきよき
おとこよきよきよき
やうくわよきよきよき
うよきよきよきよき

ら今もかねておまへあれ
やまとくもひやうやせのさ
つまくわくはまつりをし
てすゑすゑとつきはえ
すゑさしあせえそよしづる
とあくまどとひづくに
そいすりけえをえのう
せんじえほくじとじと
じれわがりはひづく
きくみだらへとひづく



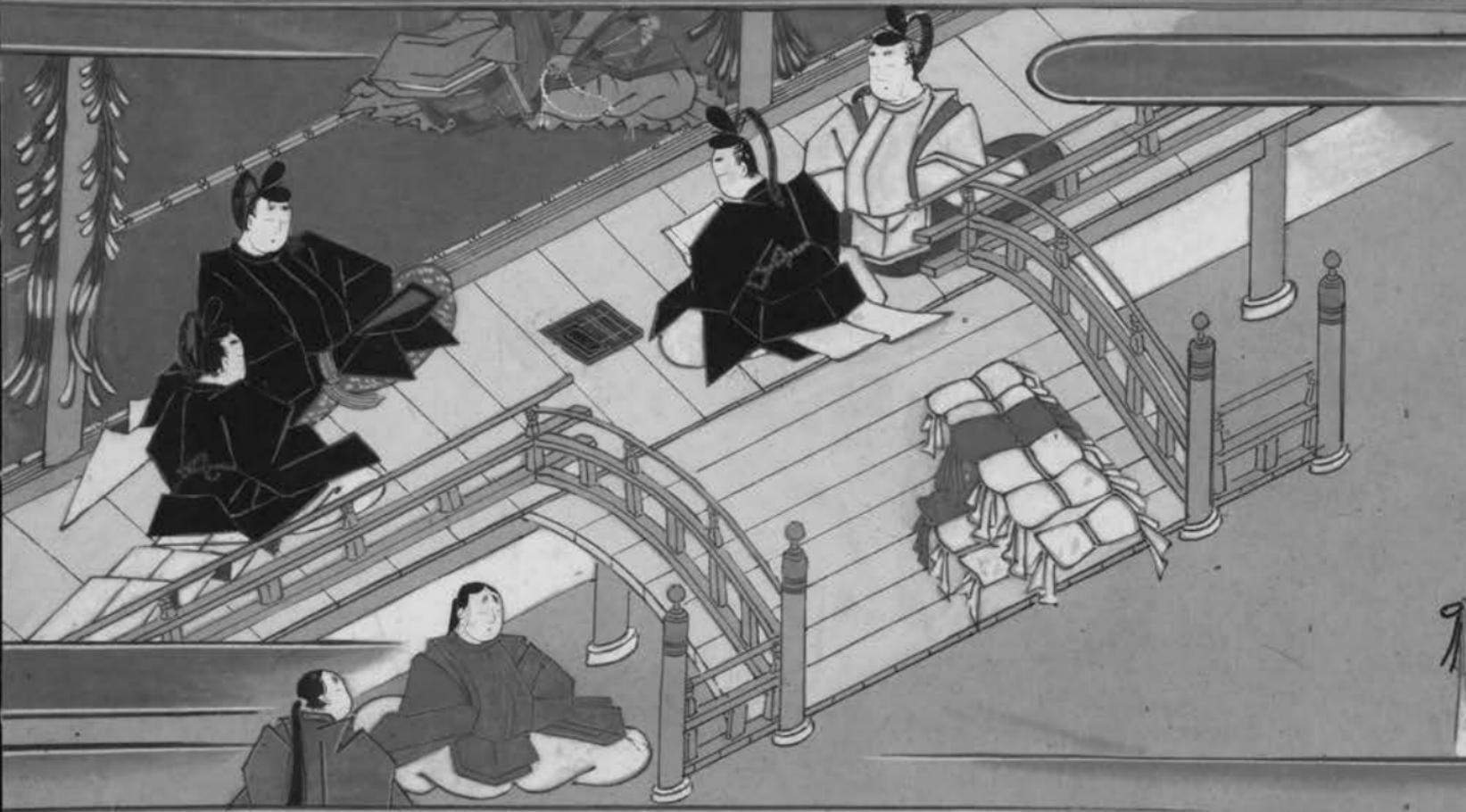
て、かこへましゆへ、ひきある
て、あがるみや、うまく、
まわすと、あまほりあ
じく、せんせえ、内へつ
も、うなづけ、せえとも
こ、いえはすとくと、そ
らやねが、うなづくわ
くはえのとく

えくえももくじらや
神ひじらうみかく
じり写セノ國うけ女え
あえありゑくとくとて
うまみけは

まつてせんじゆ風うりたうて
みるそそつてけあ
たまやすからふとよつてうを
かくわらもよしゆづめ
やて心もれやうとひし
いすきしもじそく



しーぬじれみくらうど
おつまけをだのとおろ
せあそぶこくみまとう
すがうとうせあて安祥るそ
しよくすりんくわあみ
もととくわうそとううに
つねるわちけあえりあ
ぢくくくくすれとま共
えいはやくふうくまく
そくときはふしうがくの
まくううううれやう
をじてくばそれと在えねに
海もくまくちくれづね
きくとくとくとくとく



おまとむうまじ
人へとあつてくら
えよとむじとまんじ
あはうともせねのしま
くみすまにまめこし
さくみけん
せきうらくまわす
まくはりむとぞうと
とくいをひとまえとく
とくべうりうそのつぶせ
ゆうすじうりう

すすむものへと家になら
花をうけたる人ありましやん
くは、こういそものあつて
あれと人りともんじてまき
まつもやて
金つとあわざつ年めよ
まへをとわくとくとく





やくもくらむる又人志
らむとよひ様めくはせ
うきせまなふみくわま
少てその木々へそらあ
くはかの葉ひうちねむる
をりさけとくとくがむ
いそきうりひけとのこてへ
てくとどろとととわゆくよ
あすけりそと、移といわ
ぬえにせじとむれにた
ま、じんの、おけふあく
おとしとあぬづりのうり
小ひれともとすくわ
さうもとせとの御行は
されじとおもむくゆくと
まうまく

りくせすくよとくん
わせ、うふつときじも
みくとくとくすく
せ、見くとくとくされもま
つねどもはまうまく
そくわ
一とせに一とじとくとく
金とくとくとくとくとく

くらえりとおもねれぬ
くままでさけとのわくら
1. ふうづくはよひて
85じよしとと十一月も
くわがじとすとみじ山
くわよる
あゆくまくと月を
このくわくまくはん



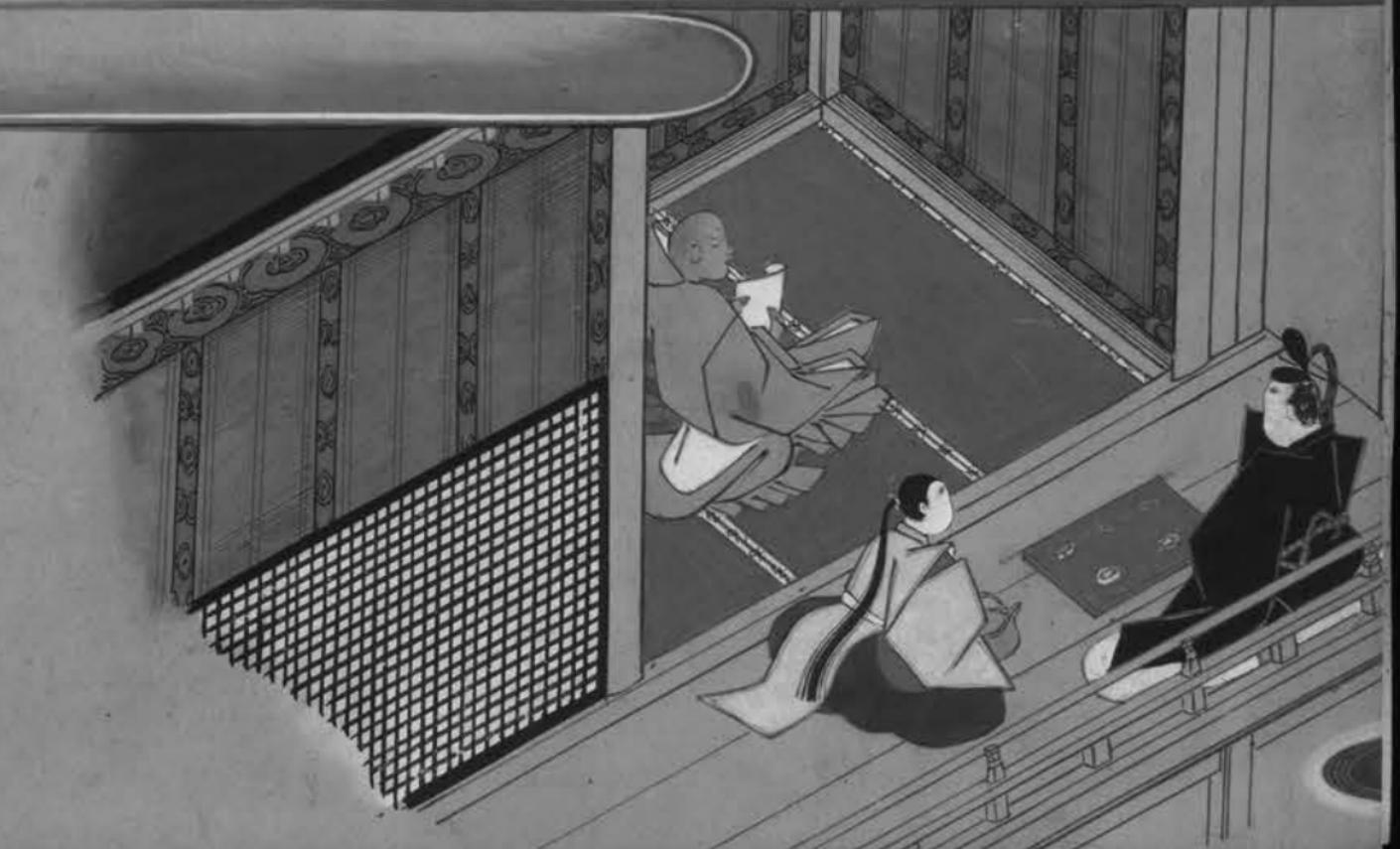
君ニヨウリもてヨウリてま
人あまつね
キタクミモヒナヒヨウル
山の月夜く月夜を
じりぐわせりあしゆがい
こぼるみんこきへりを
たすゆとごかじたう
たれおきれつゝまつまう日
うちゆくまでいよりおれ
ひとうへよどく、よしと四





おまけにましろを渡る
まつづくとすらあじよ
ましまじよりま
林乃長じゆめのうきよ
やまくわにむかひをもひ
はまくわうけまみまほ
かのうとてわがてあさ
かのうはゆつまむと
おもいはゆくうあら
せきむし月よみぬてもうじ
山へ布とるとは言ふと
ふかくじゆうゆうて
たまきとつねけきわ
じゆれゆくわすきけき
くわもとくわゆしてふ
くわくわむしとゆしてきえ
けきまことわゆしてふと
おもとわけやあことわ
けきまはまくわてタま
くはと
わきて、夏、まよひよひよ
まよひよひよひよひよ
もたじくわきやけ

じりにとまらうとも、や
しれとも見えぬを
せのむだうどいとこへ
せきはりる。まくは
しけとあいとけり
ふくえまとどもとのみ
えと家計とふくらし
経済とひきとくとくらぶ
ことてはありとほ
れくとくとくとくとく
たわきとねのとくとく
よくえりきさかわ
がのとくとくとくとく
をやいあましりとくとく
ちくとくのとくとくとく
じくとくとくとくとく



おまくらじ月にはあらが
ままでまうたけやあれまは
へけまはつねりへもままで
もきだとそめんじをみじは
ほうてすくよじをみじは
ほうてすくよじをみじは
あがわまくらに下りておほみ
じ月を下りておほみ
きみすいすいちこくとみ
ぬまてりゆまとやまかく人
ゑもくちくわらこくわくわ
とふとどもうあれう
むと力わゆるわくわく
むけりけりとくわくわく
やよきよきとくわくわく
きりはりはりとくわくわく
えり
じり、とまおだくわき女
とわもつてすりとのくをや
まけまはつみくひけく
年くわく年くわく年くわく
とにをせうめうめうめう
やましもじよしよしよしよ
くわくわく
しまでまよ待め人をもわ
との、とゆくゆくめめめめ
ともとくにくにくにくにく
をもともとくにくにくにく
をもともとくにくにくにく
をもともとくにくにくにく
をもともとくにくにくにく
をもともとくにくにくにく
をもともとくにくにくにく
じりたとつり圓じもれ
とわよわよわよわよわよ
とくとくとくとくとくとく
行のやなきくぶやまくまく
はあくまくももくじくじく
やしのまくまくのまくまく
汁ぬくまくのまくまく
きくまくまくのまくまく
ももくまくまくのまくまく
ゆくまくまくのまくまく
あくまくまくのまくまく
うまくまくまくのまくまく

じつはくさかわぬれ
徳あらわとあまうけ
とよくよだりゆる
たまは月としゆくふくせ
つみのあいの物



じてやへる事無く、
りの事も人をもと
金が無いと、あらま
うきに付さぬが、
じは生きと、そと
すしらと、わざいと、
うあと、わざうは
うが、うかうは、
うが、うかうは、
はあく
構を立めぐら
わねをのどりせの
や、ゆくをあく
じつにんぐとく
や、と月のつむら
お、とまつて、おのれ
の、とくよひ、ひの
じつ、お、おをやく
じ、お、おとおじけを
かく、とくに、と
まやもじしておひ
お、おもとおもと
お、おもとおもと
お、おきやうたの
じ、お、おせんじ
お、おうまじ
じ、お、おもと
お、おうけい、お
お、おうけい、お
お、おうけい、お

わが身のまことにとて一トね
つづくがうきあめおとこ
いはれどのうにゆる
とくゆゑてもまへ御ひあら
とゆくとだよ人をうそり
ぬまゆきじきにそろ
一あくまくやきけりうす
れうしきる

秋れ葉ふるひゆくわなが
まゆきやらくゆるに

と



せたしようまじる女ち
うれれいもひまじへや
みかむれじじにうり

しに二年、八月、秋の小枝
あらわおもてあらむるやうつ
うつふとつねりんう
あらむとしまくらをうら、それ
うにぬかし、うじしてたうつ
がくましきれい事と
うくは、もし、じと、もれん
女、やあつじくとのう
あもりすらわうりを
くわくわく

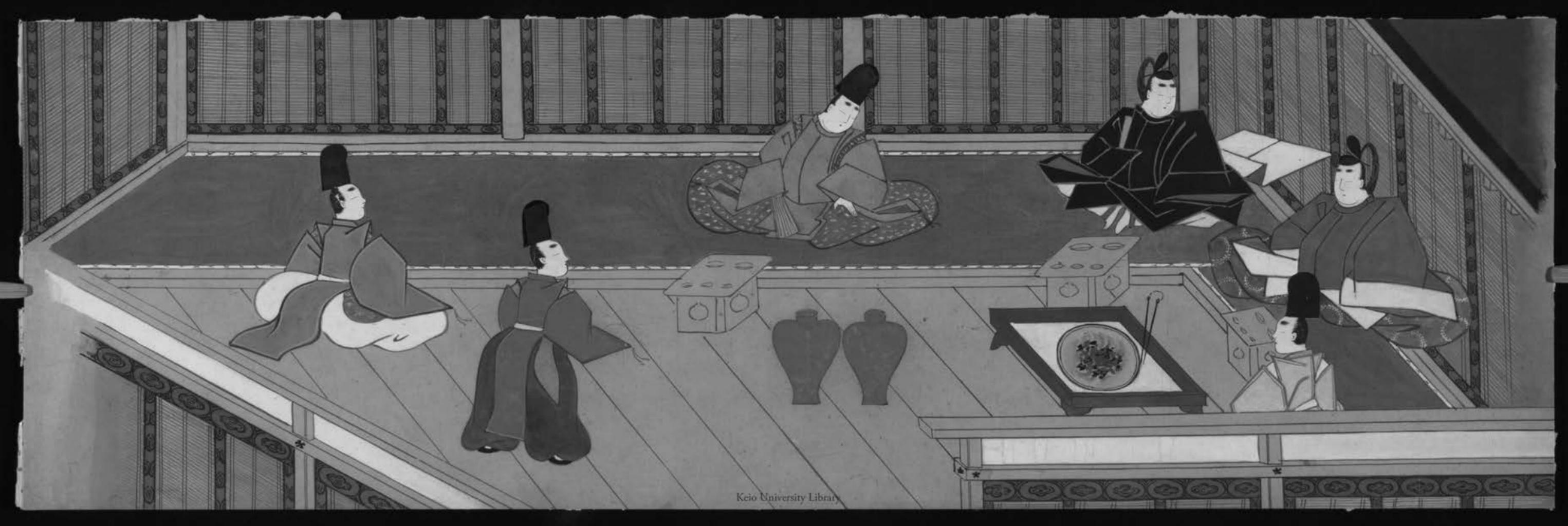
いやに魚竿うねうれゆ
うらせキと、まやそよ
けうす失てあいせう
じてたとうまうら女と
え、ぬう月りを小草うど
本、くわゆるも、病くれ
とやましまじでうくわ
神とおもしけふその、うみ
み月へ立ちそらうりうめ、
女力みうひとくわう、
みうり女、しと、セーう、ア、
左のうて病言かくガムがさ
とくとくね、てきらごと
もとあけすく秋風ふ實
いりすくれそつらげじよ
うやこらせん人ゑまと
せしもううしてくらうて
小、うりさきとくうれす
とふもうじへうきくら
ミ後はこう女がえてのうり
えうちとりあくせくうと
みてうきつあくとくせく
林すく、えぬとく
うそくもくもじくわれ
や、おとくみ、こく人
とせはこだやきと、い
ねみてやうてのらはなう
きともとくもとくわらひ
わらひとくわらじ、ふと
めもとくわらじ、ふと
くきて代う地くらじの音
きくらじくらじくら等
人志の音じくらじくら

しに二年、八月、秋の小枝
あらわおもてあらむるやうつ
うつふとつねりんう
あらむとしまくらをうら、それ
うにぬかし、うじしてたうつ
がくましきれい事と
うくは、もし、じと、もれん
女、やあつじくとのう
あもりすらわうりを
くわくわく

あそぶにすのやうじ
海へよるてんがいをひよ
さくはしま川からま
らみとすゆそりすりすり
すりすりせな各の家とせれ
めりゆうけふやま
桺もちうひく枝がさくわ
こしやうすかちゆま
じうごりおとましらこ
とわきえむすすえ
ほりつむがこなく月
もろいじせんはくわ
せきくわゆめうわ
じうじあたうとど
じまこととあわゆととけ
せしゆくもとまくらるす
まなはとすうとね
くわくはくわくはく
くわくはくわくはく
せきくわくわくはく
ひぢくわくじくわくはく
まくくわくわくはく
くわくはくわくはく
くわくはくわくはく
あくわくわくわく
あくわくわくわく
あくわくわくわく
あくわくわくわく
あくわくわくわく



しのた無事ノ事は
ありもと志山まじとよ
行まき利そのへう家
くよきけりあうときて
うへううまけふたゆを
うちてたぬそらとおとお
をじまらじこくそとお
りもとゆゆまつまう
けむすと、まわびんとあ
うたとせまちのもおお
をふあやしきなうを
うちを利れひふみと
六すくいじあうえれを
生とをとじふくとそ
ふあはうつるくとそ
うけ、ゆうときくとそ
えとくとまくとせりと
うちで金事、うらけと
もだしまことふかくと
せりとくとくと
えくわくとくとくと
をくがくもじと、もく
くまうれれとくとくの
さううとまくとくとくと
くふくまくとくとくと
くまくとくとくとくと
くまくとくとくとくと



じつおもふるむちひのゆら
うれをゆとゆめりかす
あてうめんのまみうちてせゆと
おもしりしてまじりゆ
もくろふ里てすきりとや
あそびりゆとくや福利
什么

もくとまゆのあゆう経と
くわうすすとくとくとゆ
やくしづじゆうせまねま
じく、まくらはくはくまくら
ようゆてわくまくまくら
まくらにうじくまくら
かやまくらくまくら
乃はひまくらとまくらを
え

かわくらをれゆくら
いやとふ小をなまくら
やくしまくらけくら
まくら

じつおもはゆとあく
をまくらとまくらとまく
くわくらとまくらとまく
まくらとまくらとまく

じしやくとまくらとまく
をまくらとまくらとまく
まくらとまくらとまく

じしやくとまくらとまく
をまくらとまくらとまく
まくらとまくらとまく

じしやくとまくらとまく
をまくらとまくらとまく
まくらとまくらとまく

おとこととく人と内れよ
けふ故ふれうづきと人ふ
うひくうきとゆとけよ
えをさくへくはまくは
さわがうすへんとせ
やまうてすとひまくは
だくへよか

つまくぬあせまうがま川

神のむらくわうくま

白きとくわまくせうて
あきとくわひづめまくは

力まくすうときふみじ
せりけきしる、くくうを

すいまとほとてぬまくま

あわまくうしよするに

とくせりうてほく事まくは

すりぬくわくちくようじ
えもつむけりかくとひく

そくわくわくわくくづけき
き、たま黙せようとくま

やらも

もくねむしもくねとひく

うとあくぬとゆもくね

やくもくとくまくげき、とひく

もくまくわへてふとくわきて

あくもくくすに

じく女くらむとまくみく

風くあくこくはとまくみく

くあくもくくくまくはとまく

もくねくとくくまくはとまく

だくくねおとく

すくねくとくくまくはとまく

うくねくとくくまくはとまく

じりでじとらめ女へと
全くうちをとくらめやうと
ひやもす。

がくへまちやしげしまそ
まんねんとくわんのとは

セ

をひしむとすとくわく
がくへまちやしげしまそ

セ

部とまゆも、やあひの
どきじとんとくわくと
じてたとけし、ほい、もくさ
きぬ女へとくわくはい、か
ばくのあくまくはくとく
とくぬとくまくまく

じておとやもとわあ
みくらねのわがつとく、

ふく、えきゆうせ
じてにねみとてう川の新章

トとくとくとくとくとくとく

かくふくとくとくとくとく

こくとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

くとくとくとくとくとく

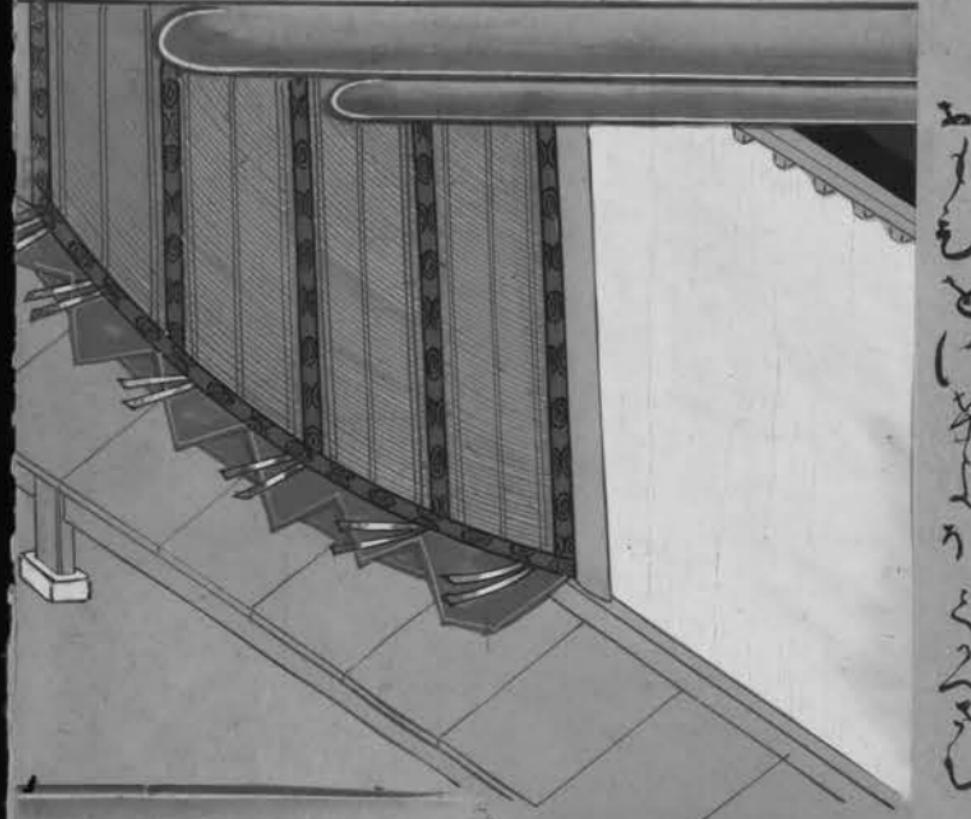
やもじやまけ
きとすとすとすとすとす

おもむり

わきても、もううきね候
きりあねくとあん
れしむさやうくら
じうとあくとみつき
りきよせり、もととて
じつおとこべととて
もとんをはくらうそとへま
す様。

よろよほほほほほほ
も想ひうぢます
さまのわがふれらる
てをまごめやどとゆ
がくつた、生あまれをく
うすくもかくものと
じつにまくまくせへ
ももじくとくとく人ふ
ももじくじあまき
えのらはぐる
あくまつくぬまくまく
はももくのをくとく
じつじくじくはくら
つぶとくく
うくじくとくとくとくとく
わくわくくわくくわく

おもむ



じりおとちよむ事うや
まほふんく
心の爲なれよりてしもひ
のひとうせきうを
や、もやまとゆもせも
じにむとくらぬよ
とくらすとやうくわさる
とくらすとやうくわさる
みあら
年とくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくと
せや
母とくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくと
じつにわら事をお
いすりやうじ
思ひうてそだてやあへき
じりおとちよむ事うや
おとへとくとくとくとくとくと

